

# 久留米の自然



久留米の自然 112号  
2011年5月1日

ハクチョウ

撮影年月 2007年3月  
撮影者 河内 俊英

## ハクチョウの渡来

河内 俊英

ハクチョウ（白鳥）は、カモ科の水鳥の総称であり、シベリアやオホーツク海沿岸（ロシア）で5～6月に繁殖し、冬になると比較的温暖な日本などに渡って来て越冬する渡り鳥です。オオハクチョウとコハクチョウがおり、渡来しない種のコブハクチョウがいます。

飛来数の多いのは、両種あわせて山形県・酒田市の最上川11100羽、次いで新潟県・阿賀野市瓢湖の5600羽などが記録されているが、北海道から中国地方まで広く渡来地は分布しています。

寿命は野生で最長20年くらい、飼育状態では20年～30年と報告されています。子育て中の野生個体は警戒心が強く、ヒナを捕まえに来た人間に襲いかかる例があります。オオハクチョウの成鳥の体重は10キロと空を飛ぶ鳥の中では最大

級の重量です。家族ははっきりしていて、いつもいっしょに行動します。ハクチョウの好んで食べるものは、瓢湖に自生しているマコモなどで、人工給餌ではシイナ（米の未成熟のもの）、麦、パンくずなどで、毎年全国各地から送られてきます。

瓢湖にハクチョウが初飛来したのは1950年であり、小さい瓢湖では餌が不足するということで、吉川重三郎氏（故人）が人工的に餌をやることを実行しました。吉川氏は4年間にわたりハクチョウの好む餌はなにか、与える方法はどうかと実験研究を重ね、1954年には遂に困難だといわれた野生の白鳥の餌づけに成功しました。

この歴史的な珍しい事例に対して1954年3月には国の天然記念物の指定が決まりました。阿賀野市の瓢湖は、ハクチョウの飛来地として2008年にはラムサール条約に登録されました。

## 久留米市の蝶 4 5

### アオバセセリ 国分 謙一

5月、野山が新緑に色取られハイキングや散策にほどよい季節となりました、近郊の野山に出かけ新緑の香りを満喫し心も体もリフレッシュしてください。羽全体の色彩が縁になるほど黒くなる濃い緑色で、樹木が青々となる5月になると1回目が出現しますから、アオバの名前がぴったり合うと思われる蝶です。

久留米市では初夏と7月の夏の年2回ほど発生します。インドから東南アジアを経て青森県まで棲息していますが、北になるほど少なくなります。

狭い意味でのアオバセセリの仲間は東洋熱帯に数種生息しているだけで、あまり多くはありませんが、日本が暖かくなった以降に分布を拡大した蝶と思われ、日本に住み着いてから古くはないと思いますが、地理的変異があるとして八重山諸島とは亜種として区別されることもあります。

### セセリは蛾の仲間？

アオバセセリの体は長い毛で覆われ、手で触ったりすると直ぐに取れてしまい、また見た感じが蛾のように見えるためか、殆んどの方は蛾ではないかと言われます。

現在の分類では鱗羽目(りんしもく)「図鑑によってはチョウ目となっていることがあります」の仲間の中で、アゲハ上科とセセリ上科に含まれる昆虫を一般的に蝶と言いつつ、それ以外の全てを蛾として区別していますが、生物学的には蝶と蛾は全く別の物でなく区別する必要がないのですが、長い間の慣例から区分しているだけで、極端に言えば全体が蛾であってその内の極少数を単に蝶としているだけです。しかし、生物は地理的隔離や自然環境により進化してまいりましたので、離れた場所に分離した物は長い年月を経て別種となったと言われておりますが、まだ別種まで分かれていない物もいます。このような生物が非常に多くいるために研究者によって生物の分

類が違っておりまだ統一されていませんし、これからも数千年過ぎても統一される事はないと思います。(人類は滅亡しているかも知れませんが?) そのため、セセリ蝶を世界的に調べると、蝶と蛾の中間的な物が棲息していてガチョウといわれている物があり、これから研究が進めば将来の図鑑では蛾と扱われているかも知れません。

### 旋回運動(縄張り行動?)

雄は山頂付近の林の中にぽっかりと空いた空間で、非常に早く旋回するように飛び回って縄張りを持ちます。大きさも関係しますが、ある程度の速さで飛ぶ鳥や他の雄が近くに来ると矢のように追いかけますが直ぐに戻り、また何事も無かったように旋回します。採集して取除き、しばらくすると別の個体と同じ場所で旋回飛行をし始めますから、この場所が蝶にとって居心地?がよい場所であることは確かです、たまに休憩する時には樹木の葉の裏に瞬間といっても良いような速さで止まります。日本の蝶で同じような性質の蝶はいません。この旋回行動を調査された報告があるかどうかは、私は知りませんが興味のある方は何時から始まり何時間飛び続けることができるかを観察して適当な自然関係の雑誌に発表されたら如何でしょうか、貴方の観察が図鑑の記述を替えるかも知れません。

### 久留米市での観察

久留米市では平地では見たことがありませんが高良山等の山間でよく見かけます。吉見岳の山頂では神社のそばで雄が旋回飛行をしているのを見ることができます、非常に速く飛ぶので色彩を確認することはできませんが、リズムカルに飛ぶ特徴があるので判りますし、幼虫は黒色で黄色の輪のような斑紋があり5cmほどで、林の中の背の低いヤマビワの葉を折り曲げて巣を造っていますから中を覗いてください、幼虫が潜んでいるかも知れません。

## 郷土の樹木13

## スギ

## 猪上 信義

日本特産の常緑針葉高木で、高さは20~30m、直径0.3~1.0m(最大は60m、4.0m以上)に達します。樹皮は赤褐色で縦に割れ、葉は鎌形針状で多少曲り、枝との区別がないので、枯れると枝每落ちます。2~3月頃、枝先に多数の雄花を付け、雌花は後に2~3cmの球果となり、熟すと狭い翼のある種子が飛び出します。材は柔らかく、通直で、加工し易いため、建築、船舶、土木、彫刻、家具、桶、樽など様々な分野に利用されます。成長も早く、育てやすいので、現在日本の人工林の40%以上はスギ林(他はヒノキ、カラマツ、アカマツ、クヌギ等)です。

本県の八女地方は特にスギ人工林が多く、谷から尾根までスギ林というのは、他では余り見られない光景です。ここでこの主な用途は昭和40年頃までは電柱材でしたが、その後はコンクリート製が普及したため、現在では一般の建築材へと移行しています。しかし離島や海岸地方では、鉄筋が錆びやすいため、今でもわずかですが電柱材として使われています。

他に特徴的なものは、日本酒の貯蔵にスギ樽が使われることです。スギ材特有の香りが酒にしみ込んで妙味を醸すことから、愛好者が多いようです。また昔から造り酒屋では新酒が出来ると、軒先にスギの葉で作った大きな球状のものをぶら下げて、近隣の人に知らせました。これは杉玉または酒林(サカバヤシ)と呼ばれ、酒屋の看板のようなものでしたが、起源は宗教的な意味合いがあったようです。

端材は割り箸や下駄財とし、樹皮は屋根や塀の材料とし、枝葉や廃材は薪とするなど、余すところなく使われました。また線香はスギの葉を乾燥させて粉末にしたものを、タブノキの葉と練り合わせたものです。

かつて久留米市の千本杉から高良山にかけては、スギ林がみられ、戦前は県の天然記念物に指定されていました。しかしその後の都市開発に伴って、伐採又は衰退・枯損して、30年ほど前までは高良山奥の院付近に群生地がみられるだけでした。今ではそれもなく、西側斜面にわずかに見られるだけです。そして千本杉という地名とバス停近くにある小さな石碑にその名残をとどめています。(写真)

スギは風媒花のため多量の花粉をまき散らし、それが花粉症の元凶ということで嫌われています。戦後木材増産のかけ声とともに植えられたスギ林が40~50年になり、花を着けるようになったからです。しかし木材として利用可能な大きさに達した



にもかかわらず、外材の輸入、生活様式の変化、材価の低迷などによりあまり切り出されずにいます。切り出しても、諸経費を差し引くと、直径30cm、樹高20mの木も一本あたり1000円以下なんていう山林がザラです。つまり50年かけて育てた木が、数ヶ月でできる大根1本とあまり変わりません。赤字にならなければマシという場合も多いのです。そのため、花粉の少ない木に変えていくことも遅々として進みません。

こういう事態を受けて、「なぜそんなにスギを植えさせたのだ」とマスコミが批判していました(いまは減ったようですが)。しかし戦後復興の時代には「なぜ林野庁はもっと雑木を切ってスギやヒノキを植えさせないんだ」という論調を繰り返していたのもマスコミです。

50年先の需要予測が出来ない林業界といい勝負のようです・・・。

## 高良川流域のキノコ (その14)

角 正博

今回から高良山系および高良川流域に見られるヒダナシタケ目のキノコについて報告します。ヒダナシタケ目では、従来の保育社の『原色日本新菌類図鑑Ⅰ・Ⅱ』に加えて、『猿の腰掛け類きのこ図鑑』(神奈川キノコの会編、城川四郎著、地球社、平成8年)などを参考に紹介したいと思います。

ひだがある傘と柄をもつ一般的なキノコのイメージからすると、ヒダナシタケ目のキノコもキノコらしさからは少しかけ離れています。このヒダナシタケ目のキノコのうち大きな傘を作るものが、いわゆるサルノコシカケ類です。このサルノコシカケ類は、昨今、抗癌作用を有することで脚光を浴び、「サルノコシカケ」という言葉だけは耳に馴染んできました。しかし、ヒダナシタケ目のキノコはかなり多様で、観察する際には、いくつか留意すべきポイントがあります。

(1) 子実体の形態：ソウメンタケやホウキタケ類のような樹枝状やイボタケ類の漏斗型のキノコもあれば、サルノコシカケ類ではコウヤクタケのような膜状からコフキサルノコシカケのような半円形の傘を形成するものまで様々です。

(2) 基物への着生形態：サルノコシカケ類では、①子実体が着生基物に膜状に広がるだけで傘を作らない全背着生、②さらに条件によって子実体の一部が着生基物から離れて棚状～半円形の傘を張り出すようになった半背着生、③さらに背着部を放棄して半円形の傘だけになったものまであります。

(3) 子実層托の形態：①胞子を作る子実層が発達している部分の「子実層托」が薄く扁平で皮層や下皮に分化せず単純、背着性が強く、菌糸構成は1菌糸型のコウヤクタケ型(コウヤクタケ科)、②コウヤクタケ型よりさらに子実体の分化が進み半背着生で、子実体の一部から傘を張り出し、傘の皮層(毛被)の下に下皮が形成されるものも多く、菌糸構成は2菌糸型のウロコタケ型(ウロコタケ科)、③子実層托がいぼ状～乳頭状の突起をもつイボタケ型(イボタケ科)、④子実層托のいぼが

伸びて針状の突起を下げるハリタケ型(サンゴハリタケ科、ニクハリタケ科など)、⑤子実層托が管状の穴(管孔)となった多孔菌型(多孔菌科)などに分けられます。

(4) 表皮組織の形態：子実体の分化が進み、傘を張り出すサルノコシカケ類では子実体の縦断面の観察が必要になります。①表皮も殻皮もない「無皮無殻」、②緻密な菌糸の層の「表皮」があるもの、③「毛被」があるもの、④「毛被」と「下皮」(毛被と肉との間に形成される緻密な境界層で褐色に見える。)があるもの、⑤「毛被」と「下殻」(毛被と肉の間に形成されるかたい境界層で、毛被が脱落后に露出して殻皮となることが多い。)があるもの、⑥殻皮があるものなどがあります。

(5) 木材腐朽型：生態的特徴では①木材成分のセルロースもリグニンも分解する「白色腐朽菌」の場合、腐朽材は白っぽくなり「白腐れ」と呼ばれます。一方②木材成分のセルロースのみ分解され、リグニンが分解されない「褐色腐朽菌」の場合、腐朽材は褐色となり「褐色腐れ」と呼ばれ、重要な生態的特性とされています。また侵入・腐朽部位によって③木の根に侵入して根や幹の根元を腐朽させる「根株腐朽菌」の場合を「根株腐れ」、④幹に侵入して幹を腐朽させる「幹腐れ菌」の場合を「幹腐れ」と呼んでいます。

(6) 菌糸型：顕微鏡的特徴として菌糸構成を確認することも重要です。菌糸には基本的に次の(あ)細胞壁が薄壁で隔壁(細胞の境界にある細胞壁)があり、分岐する「原菌糸」(生殖菌糸)、(い)厚壁(細胞壁が厚い)で隔壁がなく、典型的なものは直線的で分岐しない「骨格菌糸」、(う)厚壁で隔壁はなく、著しく分岐、屈曲する「結合菌糸」という3つの種類があります。そしてキノコの種類によって、①「原菌糸」だけで構成されているものがあり、これを「1菌糸型」、②「原菌糸」と「骨格菌糸」または「原菌糸」と「結合菌糸」から構成されているものを「2菌糸型」、③3つの菌糸から構成されているものを「3菌糸型」と呼びます。

## 生き物に魅せられて その50

## テングチョウの巻 松永 紀代子

2007年4月10日、津古の湿地では、ヤノネグサが水面のあちこちに新芽を伸ばしていた。

シオヤトンボの翅がキラリ、キラリと太陽に反射し、時折カサ、カサと翅がぶつかる。テングチョウがヒラヒラスーとやってきては地面で給水。大きなスズメバチは朽木をかじるのに一生懸命になっていた。

何度かテングチョウが飛んだ時のこと、シオヤトンボが猛然と後を追った。すると私の目の前で、ハラリ、木の葉が落ちた。いや、テングチョウが翅を空中でたたんだのだ。木の葉になった蝶は、地面の落ち葉にまぎれてしまった。いや、いる。あそこに横倒しになっている。

危険を回避する方法。なんとテングチョウは飛ぶことをやめることで逃げおおせたのだ。小さな生き物が見せてくれたほんの一コマ。なんだか胸がいっぱいになった。

## 森や川のことを語ろう会 古賀 信夫

3月13日(日)ハイネスホテルにて福岡都市圏広域行政事業組合主催の「森や川のことを語ろう会」が開催されました。当会からは橋田会長をはじめ3名が参加しました。福岡市や日田市その他各地から11の団体が参加し、第一部ではラジオのパーソナリティーや気象予報士を中心に各団体の紹介や、めずらしい魚の紹介などそれぞれの活動を中心に話が進みました。第2部は懇親会となり、お互いに食事をしながら交流を深めました。最後に主催団体のイメージソングである「筑後川にて」をみんなで合唱して散会となりました。



森や川のことを語ろう会の様子

ひととき	動物笑い話	その56
	犯人(ホシ)は	米田 豊

都市近郊の農家の人達が立ち話をしていた。「最近トマトがよく喰害されるね」「タヌキかアナグマの仕業かな」「残された足跡は違うみたい」「近くの神社の柱に爪痕があって、屋根裏に何か動物が巣くっているから、そいつが犯人かも」

数日後、境内に仕掛けられたワナに動物がかかったと言うので言ってみた。「見かけない動物だね」「これ、アライグマじゃない。ほら、アニメのラスカルにそっくりだもの」「でも、可愛くないね。凶暴そうだし」「本当ね、あたかも泥棒のように黒いマスクもしているし」「でも、これが犯人とは断定できないよ」「お手水にトマトのヘタが多数落ちていたから、可能性は高いよ」「畑の足跡と今の足跡が一致したので、犯人ですね」「足を洗えそうもないから放免はできないね」

\*アライグマ科に属し、体長が約55cm。北米に分布する外来種で、分布の拡大と共に被害も拡大。クマのような蹠行性の歩行的ため、足跡は明瞭。

## 生産流通課との話し合い 大木 武彦

3月29日に「四季の森ふれあい教室指導者連絡会議」が開かれ、久留米市農政部生産流通課との話し合いがもたれました。市から提案(素案)がなされている(1)ふれあい教室への市職員の参加は原則しない。(2)当日の必要物品や旗、鍵の取り扱いは各団体が行う。(3)イベント中止の場合の参加者への連絡、居残りは各団体が行う。

(4)当日の怪我、体調異常への対応は各団体が行う。(5)その各団体への補償は謝金の1~2名分の増額で対応したい。等々の件については、24年度からの運用を目指して、23年度中に各団体との話し合いの場をもち、内容についての可否を協議していくこととしました。従って、23年度中のイベントは22年度と同様の運用を行うこととなりました。なお、市から、23年度は学校関係へのイベント参加を働きかけていきたいとの発言がありました。

## 筑紫、筑後にゆかりのある斉明天皇

久留米市文化財専門委員 高山 美子

女性でありながら天皇を二度つとめたのはこの方だけである。天智天皇は息子で、百済救援に出兵したものが、大敗しほうほうのていで逃げ帰り、その大陸からの強い力に対抗するため水城や防塁を築いた。

斉明天皇は皇女があり、間人皇女とよばれ、神託を司り、天皇の手助けを行っていたという説が残る。

斉明天皇亡き後、天地天皇が6年間もの長き間、在位せずに皇太子のままであり、その間の4年間は間人皇女が大役を担い、間人亡き後2年間も喪にふしたとの記録が残り、飛鳥・下市岡陵、牽牛子塚古墳に斉明と合葬された。

この二人の公式陵は他にもあるが、古きより伝承された墓があつて昨年秋、飛鳥で発掘作業が進められ、ついにこの事実が明らかになった。

私も、現地に足をはこび周囲を歩いてみた。なるほど、八角形の基盤石が出土し、合葬棺もみごとに現れている。

そこで、不思議に想うのはその名で、なぜ牽牛子塚古墳なのか？七夕伝説を想いめぐらした。

福岡県小郡市稲吉に牽牛を祀った像があり、織女の像は宝満川対岸の七夕神社にある。

松本清張の説では、斉明の子である天智と間人皇女はゆるされない愛を秘かに結んだとある。

七夕伝説は、大陸の故事から日本にも伝わったと言われるが、この牽牛子塚という名は何を表すのだろうか？

その時代、斉明は宝満川と筑後川を運河でつなぎ舟をうかべたといわれている。宝満川の川岸で、織女である間人皇女と牽牛である天智が逢えずに、川をはさんで歌を詠んだのかもしれない。

天智天皇は、水時計を築き湧水による水を満たすことで、時を刻んだ天皇である。

この朝倉や小郡、そして久留米にまつわる天皇たちの戦いや恋の道行。調べればまだまだ多くのロマンが見えるだろう。筑後川と宝満川を結ぶ運河の大工事をやってのけた女帝は飛鳥でも「たぶれ心の溝」といわれる運河を築き、人々から後々語り継がれている。大工事をあちこちで実行した斉明天皇。雨乞いづとめでは、雨を降らせ鬼気迫るシャーマンでもあった。662年朝倉の宮で亡くなっている。

## 高良川流域の地衣類（その2）角 正博

### 2. 地衣類とは

さて、地衣類と聞いて、実際どのような生物なのかご存知の方は少ないはずです。以下では『地衣類のふしぎ』（柏谷博之、ソフトバンククリエイティブ、2009）、『地衣類初級編』（山本好和、三恵社、2007）を参考に述べてみます。

地衣類の最も著しい特徴は、単一の生物ではなく、キノコやカビとして馴染みがある菌類（真菌類）と系統的にかけ離れた緑藻類や藍藻類（シアノバクテリア：細胞核をもたない原核生物なので、現在では真正細菌に位置づけられています。）などとの共生体である独立栄養生物であるという点です。藻類は「光合成によって二酸化炭素と水から糖類を作って菌類に供給し、一方、菌類は藻類が生存しやすい水分環境を作る」ように共生体を形成して、互いに永続的で安定した共生関係を維持している共生生物であるところに、地衣類の特徴があります。地衣体の大部分を構成する菌類については、「生殖器官の特徴が、単独で生活する子囊菌や担子菌と基本的には違いがない」ことから、現在では地衣類を「特殊な栄養法を獲得した菌類」と考えるようになりました。

地衣類の和名の70%近くは、「ウメノキゴケ」や「マツゲゴケ」などのように「〇〇コケ」と呼ばれるため、多くの場合「スギゴケ」や「ゼニゴケ」などの緑色植物である蘚苔類（コケ植物）と混同されています。その理由としては、私たち日本人は従来、蘚苔類（コケ植物）などの小さな植物をひとまとめにして「こけ」と総称して区別してこなかったことがあげられます。その結果、一般の人から地衣類として認識されることはほとんどありませんでした。

## 総会報告

平成23年1月23日久留米市役所3階会議室にて平成23年定時総会を開催しました。下記記載の議案はすべて原案通り満場一致にて可決いたしました。総会后、記念講演会及び新年会を行いました。会員の異動状況

- 平成22年12月31日現在会員数 75名
- 入会者 宮崎和子、吉富 功、松田布美子
- 退会者古賀正子、野田尚代、権藤千恵子、井出成子、佐藤好雄、森光千春、森田公造、高木朋子、渡辺笙子

## 第1号議案 活動報告

### 1、例会開催

月日	NO	内容	内容その他
1月24日	376	総会記念講演会	テーマ「無添加石鹸と地球環境」 講師 林真一氏 場所 久留米大学御井学舎
2月14日	377	高良山探鳥会 雨天の為中止	共催 日本野鳥の会筑後支部 久留米市生産流通課
3月28日	378	筑後川春の野草を愉しむ会 事故の為中止	共催 筑後川まるごと博物館運営委員会
4月29日	379	高良山樹木の名札付け	場所 高良山南回りコース
5月9日	380	高良山バードウィーク探鳥会	共催 日本野鳥の会筑後支部
6月27日	381	キノコの自然観察とキノコ汁会 雨天の為中止	場所 高良台演習周辺 参加者が2人あったので、実施しました。
7月19日	382	水辺の自然観察会と魚ツチング	共催 筑後川まるごと博物館運営委員会
9月18日	383	筑後川観月会	共催 筑後川まるごと博物館運営委員会
10月17日	384	ネイチャーゲームと自然観察会	共催 くるめネイチャーゲームの会 久留米市生産流通課
11月14日	385	高良山・四季の森バードウォッチングウィーク探鳥会	共催 日本野鳥の会筑後支部 久留米市生産流通課
12月5日	386	高良山キノコ観察とキノコ汁会	共催 久留米市生産流通課

## 2、会報「久留米の自然」発行

号数	発行年月日	表紙写真	ページ数
107	2010年1月1日	打越丘陵	14ページ
108	2010年4月1日	カワウの大群、筑後川で食餌	14ページ
109	2010年7月1日	カササギ	8ページ
110	2010年10月1日	ヨウラクラン	12ページ

## 3、総会、会議等 ※幹事会は毎月第1水曜日に開催（午後7時より）

月日	会議名	場 所
1月13日	幹事会	山川コミュニティセンター
1月24日	平成22年総会	久留米大学御井学舎メディアセンター
2月3日	幹事会兼事務局会議	山川コミュニティセンター
3月3日	幹事会兼事務局会議	山川コミュニティセンター
4月7日	幹事会兼事務局会議	山川コミュニティセンター
5月12日	幹事会兼事務局会議	山川コミュニティセンター
6月2日	幹事会兼事務局会議	山川コミュニティセンター
7月7日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
9月1日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
10月6日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
11月10日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F
12月1日	幹事会兼事務局会議	えーるピア久留米2F

## 4、懇親事業

1月24日（日） 新年会 御井町「家庭料理 さつき」にて

## 5、他団体への協力

月 日	内 容	場 所
5月	ちびっこ天国（木のおもちゃづくり）	鳥類センター
6月	環境フェア（木のおもちゃづくり）	百年公園
7月	河川愛護月間展示発表	くるめウス
	こーら川探検隊	高良川下流
8月	こーら川探検隊	高良川中流 くるめウス
10月	チルドレン・キャンパス事業	くるめウス
	チルドレン・キャンパス事業	くるめウス
11月	緑のハイキング講師	高良山：兜山



**第2号議案 平成22年度収支決算**

収入	1. 前期繰越 (現金 3672 預金 143,856)	147,528
	2. 実収入	332,990
	①会費<現金 (現金 54000 振込 110000)	164,000
	2008年分 (2人) = 4000	
	2009年分 (3人) = 6000	
	2010年分 (59人) = 118,000	
	2011年分 (16人) = 32,000	
	2012年分 (2人) = 4,000	
	②例会 行事費	18,000
	③読本代 (現金 42,000+振込 6,600 動物笑い話 1,000)	49,600
	④カンパ+利子 101,348+42=101,390*1	101,390
	*1 講師料 97,348 を含む	
	計	480,518
支出	1. 会報作成	171,400
	108号 (14p) 46,500 *2 増ページ印刷費値上げ	
	109号 (8p) 36,000	
	110号 (12p) 46,200 *3 増ページ編集費値上げ	
	111号 (10p) 42,700	
	2. 通信費	33,655
	3. 印刷 コピー	4,030
	4. 事務局費	24,360
	5. 文具費	23,093
	6. 行事費	28,283
	計	284,821

収入 480,518 - 支出 284,821 = 差引残高 195,697

監査報告 2011年1月20日

上記の通り相違ありません。

野口 勝司 印      高山 美子 印

総会の様子



**第3号議案 平成23年度事業計画**

## 1、23年度例会開催

月日	NO	内容	場所(担当者)
1月23日	387	総会記念講演会テーマ「グラミン銀行」講師 古賀暉人氏	場所 久留米市役所3F305号(事務局担当)
3月27日	388	筑後川春の野草を愉しむ会	共催 筑後川まるごと博物館運営委員会(橋田・事務局担当)
5月29日	389	高良山・樹木の名札付けと豚汁会	高良山・南回り遊歩道(河内・事務局担当)
6月26日	390	高良台・キノコ観察会とキノコ汁会	場所 高良台周辺(角・事務局担当)
7月18日	391	水辺の自然観察会と魚ツング教室	共催 筑後川発見館・ヒナモロコ里づくりの会(石橋・事務局担当)
9月3日	392	筑後川観月会	共催 筑後川まるごと博物館運営委員会(丸山・事務局担当)
10月16日	393	ネイチャーゲームと自然観察会	共催くるめネイチャーゲームの会 久留米市生産流通課(橋田・事務局担当)
12月4日	394	高良山キノコ観察会とキノコ汁会	共催 久留米市生産流通課(角・事務局担当)

## 2、23年度会報「久留米の自然」発行

号数	発行年月日	表紙写真	ページ数
111	2011年1月1日	出土した編製品	10ページ
112	2011年5月1日	白鳥	16ページ
113	2011年9月1日	未定	14ページ予定

## 3、23年度総会、会議等

※幹事会は奇数月第1水曜日に開催(午後7時より)

月日	会議名	場所
1月12日(水)	幹事会兼事務局会議	えーるピア2F
1月23日(日)	平成23年度総会	久留米市役所3F305号室
3月2日(水)	幹事会兼事務局会議	えーるピア2F
5月11日(水)	幹事会兼事務局会議	えーるピア2F

7月6日(水)	幹事会兼事務局会議	えーるピア2F
9月7日(水)	幹事会兼事務局会議	えーるピア2F
11月9日(水)	幹事会兼事務局会議	えーるピア2F

## 4、23年度他団体への協力

月日	内 容 (主催者)	場 所
7月	河川愛護月間展示発表3人 (筑後川河川事務所・福岡県・久留米市)	くるめウス
11月	緑のハイキング 講師5人 (緑の市民会議)	高良山：兜山

## 第4号議案 平成23年度収支予算

## 平成23年度収支予算

## 収入

1. 前期繰越	195,697
2. 実収入	
① 会費 (75×@2,000)	150,000
② 例会行事費	20,000
③ 読本代	40,000
④ カンパ+利子	50,000
計	455,697

## 支出

1. 会報作成 (3×@52,500) *1	157,500
2. 通信費	39,000
3. 印刷 コピー代	5,000
4. 文具代	25,000
5. 事務局費	25,000
6. 行事費	30,500
7. 予備費	173,697
計	455,697

\*1 @印刷費 31,500+編集費 21,000=52,500

**第5号議案役員選任の件**

役 職	現 行	改 選 後
会 長	橋田沙弓	橋田沙弓
副会長	河内俊英	河内俊英
	国分謙一	国分謙一
幹 事	丸山由紀子	丸山由紀子
	角 正博	角 正博
事務局	古賀信夫	古賀信夫
(会計)	宮原洋子	上野實知子
	大木武彦	大木武彦
	中野昭剛	中野昭剛
会報編集	古賀信夫	古賀信夫
	橋田沙弓	橋田沙弓
	大木武彦	大木武彦
	丸山由紀子	丸山由紀子
会計監査	野口勝司	安本康時
	高山美子	高山美子
顧 問	荒巻健二	荒巻健二
	松富士将和	松富士将和
名誉顧問	丹部竹志	丹部竹志

**備品一覧表**

デジタルカメラ (PENTAX K200D)、デジタルカメラ (NIKON)、双眼実体顕微鏡 (NIKON フェーブル)、プロジェクター (ACER)、スクリーン、のぼり、野草料理調理用具一式、お茶会用具一式、カセットコンロ1台、タイガーステンレスジャー(木目)2,2升、3,2升 (寄付)

**書籍在庫**

ひとつの川から見えるもの 205冊

動物笑い話 60冊

総会記念講演 古賀暉人氏 (元古賀病院理事長) より

### バングラデシュとグラミン銀行

副会長 河内 俊英

バングラデシュはガンジス川とブラマプトラ川が合流してできた三角州にある。国土面積は日本の40%であるが人口は1億5千万人、年間所得五万円以下の貧しい国である。しかし、18世紀には、「黄金のベンガル」と言われ収穫量が多い肥沃で豊かな地域であった。雨季と乾季のある亜熱帯・サバンナ気候であり年間降水量が1万ミリにもなる。そのために、雨季には国土の大半が洪水被害にあうが、洪水は肥沃な土を運び、豊かな収穫をもたらす面もある。

ところが、乾季になると水不足が起きることから日本の民間団体などの寄付で井戸が多数掘られ寄付されたが、井戸水のヒ素汚染問題が起きている。ヒマラヤ山系から流れ出す河川の流域周辺には、土壌のヒ素汚染が広がっていることが近年明らかになった。人口増加はいまだに続いており、食糧不足、安全な飲み水不足が慢性的である。電気の普及状況は20%レベルであり、識字率が50%と低いことが発展の妨げになっている。

農業が国内産業の中心であるが、国内に仕事が少なく外貨収入の多くを出稼ぎに依存している。

このような貧しい国の支援としてグラミン銀行がある。グラミン銀行は、女性の地位向上を目指して自立を助けるためにつくられた融資制度で、ビジネスを開始する女性に「少額融資」するものである。融資を受けた女性は、真面目に仕事を成功させ自立して、借金の返還率が95%を超えると報告されている。この融資制度はバングラデシュで生まれ、成功を収めたことから、現在では世界各地の途上国に広がっている。バングラデシュでは、現在日本のユニクロも含め縫製産業が発展している。この国の発展には、人口の安定と教育による識字率のアップが欠かせない。高齢化がすすむ日本では将来的には、若年層が多いバングラデシュから若い労働力の供給を求める時期が来るかもしれないと古賀氏は述べていた。



講演会の様子

### 第388回例会報告

春の野草を愉しむ会 丸山由紀子

3月27日(日)くるめウスで、春の野草を愉しむ会を行いました。昨年は直前で中止になったため、2年ぶりの開催となりましたが、お天気にも恵まれて45名の参加がありました。肌寒くても陽射しはすっかり春!で、野草の名前を確認しながら皆で調理を行い、野菜とはまた一味違う野草をしっかりと味わいました。子ども達もおだんごを丸めたり、コロッケの衣をつけたりして、手伝ってくれました。予定よりも時間がかかり、お腹もかなり空いてきた頃、ようやく「いただきます」になったため、お料理がさらにおいしく感じられたのではないかと思います。自然の恵みに感謝し、春の植物がもつエネルギーを感じながら、「野草を愉しむ」ことができました。メニューは次の通りです。

野草天ぷら、野草焼きそば、ノビルちぢみ(韓国風お好み焼き)、野草コロッケ、白和え、酢みそ和え、ヨモギねりこみだご汁、ナズナごはん、ヨメナごはん、セリごはんのおにぎり、ヨモギだんご、ヨモギゼリー、ハコベグリーンジュース

### 参加者の感想文

久留米市東合川新町 千北 静子

種々な自然な野菜をいただきおいしくいただきました。青空の下でおいしくいただけました。楽しい食事ができました。

**久留米市西町 山本 梨世**

私は春休のうちに、料理が上手になろうと思いおばあちゃんや、おじいちゃんに「料理やきつたりするのお手伝いさせて」とたのみ、野菜を切ったり、おにぎりを作ったりしました。他のまわりの人も上手！手つきがなれている！とかほめられてとてもうれしかったです。料理が上手になる第一歩だと思いました。ありがとうございました。

**久留米市東合川新町 小野 廣子**

お天気も良く野草の種類もたくさん知ることができ、楽しく一日をすごすことができました。又、野草を使って天プラ、豚汁、焼きソバ、チヂミ、おにぎり、はこべ生ジュース、ヨモギのジェリー etc いずれもおいしく頂きました。会の皆様ごちそうさまでした。

**久留米市宮ノ陣 高松 靖子**

野草を摘むのも楽しかったし、おにぎり、天ぷら団子汁、焼きソバなど何でもおいしく外で食べるのは又格別です。ジュースもゼリーも青くさくなくおいしかったのにはびっくりしました。ありがとうございました。

**久留米市津福今町 後藤 隆**

色々の春の野草を知ることが出来て、自然がより身近になり嬉しく思いました。お天気に恵まれ楽しく美味しい沢山の食事に満足しました。

**久留米市津福今町 後藤 由紀**

朝はまだ冷え込みがありましたが好天に恵まれ楽しい野草摘みが出来ました。今まで雑草でしかなかったものが健康にも良く春の香りにも出会える食べれる草々であることを知りました。お料理も種類が多く大変おいしく頂きました。ありがとうございました。

過ごしやすい天候に恵まれ良かったです。道具、材料もあれだけ準備できる事に驚きました。天ぷらは凄いです。ひととおりの材料を美味しく仕上げられます。

**久留米市東町 舛永 博子**

河川敷の野草の御説明をうけながら野草摘み皆さんと御一緒に料理作り、お食事ととても楽しく過ごさせて頂きました。ありがとうございました。

**久留米市御井町 平木丈夫**

野草名を教えていただき、その上、それを材料にした料理を食し、素晴らしい刻を過ごすことができました。私は血圧が高いため特に食べた野草の中に、それを降下させる効果があると知り、何かとうれしくなりました。

**久留米市諏訪野町 玉眞 真由美**

何度か声をかけていただきながらもなかなか参加できず今回初めて参加させていただきました。つばきやつくしの天ぷらやたくさん野草の料理を2人子どもたちもおいしそうにパクパク食べました。楽しいイベントをありがとうございました。

**神崎市脊振町 渡邊 紀久子**

お天気が良く楽しいひとときでした。椿の天プラは初めての経験、びっくり、おいしい楽しい出来で、野草の焼きソバも春らしくおいしかったです。葉らんの皿作りも思いもよらぬ納得作品です。ジュース、ゼリーもおいしかったです。

**渡邊 楓**

今日は、コロッケとおにぎりとはっばのお皿づくりとヨモギだんごのお手伝いをしました。はっばのお皿づくりが楽しかったです。だご汁のおかわりをしました。ジュースもおいしかったです。また参加したいです。

**筑後市 松田 布美子**

今日は、子供達と参加し、とても楽しいひとときを過ごすことができ、ありがとうございました。本当に楽しかったです！天気もよく、自然とともに過ごせることがこんなにこちよいかと。

改めて人は自然の一部なんだと感じました。また、河川敷がこんなに食べ物の宝庫だとは知らずびっくりでした。自然はおりがたいなあとつくづく思いました。先の方原事故を考えると、自然を守る為原発はなくさなくてはいけないなあとも思いました。子供達が楽しそうにつくしを摘む姿が良かったです。

#### 筑後市 松田 有加 (小5)

私は、野原に生えている草は食べられる草が何本もあったことが分かりました。それを料理して食べてみたら、にがかったけどすごくおいしかったです。

#### 筑後市 松田 充史

おいしかったです。

#### 広川町 毛利 宗孝

参加したいと思いながらやっとスケジュールが合って参加できました。もっと植生が多様だったら良いのと思いました。

#### 福岡市中央区 小藤 佳紀

野草を愉しむ会—自然を観察して作る食べる事が出来る催しは人生のストレスを消化させる必要不可欠な行事だと思います。人生の基本を教わったと感謝しております。これからもこの会が持続出来るよう祈っております。本日はありがとうございました。

#### 会員投稿 タブノキ 若林 春美

前号でカゴノキの一文を載せていただきましたので、それに縁続きのこの樹のことを書きました。

この樹は前者と同じクスノキ科で、生育地も同じ範囲のところ。牧野図鑑によると「タブノキ、一名イヌグス、暖地諸州の主として渤海地方に大木常緑大喬木にして高さ13m許りに達し、幹の直径1mに及ぶものあり。タブノキのタブは意味不明、イヌグス(犬樟)はクスに似て、クスに非ず、耐して其材、質劣る故言う」とあります。

前者のカゴノキとタブノキは生育地域は全く同じ、暖地の低地で共に海に近いところです。ただ

その生育の分布状態が極端に異なります。カゴノキは和歌山市、萩市、久留米市の3ヶ所(私の識る限り)で、しかも個体数も極めて少いし、その周りには後継樹も見当たらない。

一方、タブノキは青森、秋田、岩手の3県を除く東北部から種子島まで海に近い低地に帯状に連なって生育しています。(岡山県の牛窓地区にはタブノキの生育を見ないと聞いていますが、そこは寒の頃、極端に雨の少ない所です。)

このタブの林ですが、私の識る限りでは、三浦島の葉山付近のタブ林の相観が最も木目(テクスチャー)が細かく上等の厚手の絨緞を敷いたような重厚な感じのする美しい樹林です。近くの伊豆半島の東岸のそれは少し木目が荒く感じましたが5月の初め頃鮮紅赤色の新芽が美しく印象深く残っています。一昨年秋、天草で見たタブ林は強い光沢に輝いていました。その他私が見たタブ林の全てに、若い苗木や若木が多く見られました。これからも、この樹林は永く存続してゆくことでしょう。その相観はそれぞれの地方の特色(郷土色)を現わしながら。

#### 追記

1、カゴノキの原稿を投函した日からしばらくして、同じく参道を登りながら、ふとカゴノキに目をやりましたら、何と幹肌が少し紫色を帯びてきているように感じられその後濃くなり模様の区別もはっきりしました。

指月城(萩城)のものは旅行中に見つただけで、大社のものと同じような変化が見られるかどうか私にはわかりませんが、和歌山城址のは、昔3年間ほど毎日のように見ていましたが、その変化はありませんでした。



タブノキ

## 《行事案内》

## ◇ 第389回例会：

## 高良山・樹木の名札付けと豚汁会

昨年と同じ南回り遊歩道の樹木の名札付けをします。樹木を身近に感じられます。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：5月29日(日) 雨天中止

〔集合・解散〕：10:00 13:30 高良大社駐車場

〔参加費〕：無料 定員20名

〔持参するもの〕：筆記用具、帽子、お茶

## ◇ 第390回例会：

## 高良台・キノコ観察会とキノコ汁会

高良台周辺の道路を歩きながら、キノコ観察会を行います。講師金子周平氏(福岡県森林林業技術センター)によるご指導です。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：6月26日(日) 小雨決行

〔集合・解散〕：9:00 13:30 上津小運動場

〔参加費〕：300円 定員20名

〔持参する物〕：おわん、お皿、おはし、お茶

## ◇ 第391回例会：

## 水辺の自然観察会と魚ツッチング教室

くるめウス横の高良川の浅瀬で水質と植物と魚類の観察教室を行います。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：7月18日(月 祭日) 雨天中止

〔集合・解散〕：10:00 12:30 くるめウス

〔参加費〕：無料 定員20名

〔持参する物〕：着替え、帽子、お茶、筆記用具

〔共催〕：筑後川発見館

## ◇ 第392回例会：

## 筑後川観月会

天体観察と星座、お抹茶も頂きます。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：9月3日(土) 雨天中止

〔集合・解散〕：19:00・21:00 くるめウス

〔参加費〕：300円 定員30名

〔持ち物〕：筆記用具

〔共催〕：筑後川まるごと博物館運営委員会

## 《事務局だより》

梅の花も終り、桜の花にバトンタッチをし、野草たちも勢いよく葉を伸ばす頃となり、ずいぶん過しやすくなりましたが、東北地方では地震、津波、原発事故と…。死亡・行方不明の方は30,000人近くの犠牲者になろうとしています。住居も倒壊し又、流され雪の降る寒空の下で避難生活をされている人達に何と言ったらよいか、言葉が想い浮かびません。新聞の記事に4才の女の子が両親と妹をなくし祖母のところに避難していて、「ママいつ帰って来るの」と習い覚えの字で手紙を書きながら眠っている姿の写真と茫然と海の方を見ているのが掲載されていました。つい、涙してしまいました。

ホームページもご覧下さい。

<http://kurumenoshizen.net/>

## 1. 会員異動

入会 紫藤拓也(久留米市) 堤 啓子(筑後市)  
渡辺紀久子(神崎市)

## 2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙(口座番号01750-1-40114)に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

## 3. 原稿募集

次号113号は平成23年9月1日発行予定です。原稿の〆切は8月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

## 4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会(定例)は原則として奇数月第1水曜日の19:00~21:00まで、えーるピア2Fで行います。皆さんも気軽にご参加下さい。(5月11日、7月6日、9月7日)

## 久留米の自然

平成23年5月1日第112号

発行 久留米の自然を守る会

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0827

久留米市山本町豊田 2320-6

TEL 46-8622 FAX 46-8623 (古賀)

印刷 千年屋印刷

TEL 43-2400 FAX 43-2408